

(別紙2)

令和2年度離島漁業再生支援交付金漁業集落实績報告

令和3年3月1日

1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：沖縄県

市町村名：宮古島市

島名：伊良部島

協定対象漁業集落名：佐良浜漁業集落

協定参加世帯数：146世帯(147人)

(うち漁業世帯数：114世帯(115人))

2. 協定締結の経緯

宮古島市は八重干瀬などに代表される広大な珊瑚礁群に囲まれるとともに、島の南北に黒潮の潮流が流れるなど良好な海域環境を有しており、それらを活用した一本釣漁業、パヤオ漁業、網漁業、潜水器漁業、モズク養殖業等が営まれている。しかしながら、良好な漁場を有している一方、離島という地理的特性に起因する高コスト構造等の条件不利性などから漁業者の減少が進んでおり、この状況を放置すれば本市の漁業集落は一層衰退し、集落及び水産業が持つ多面的機能が低下することも懸念されている。

そのようなことから、漁業集落が行う漁場の生産力の向上や漁業の再生に関する実践的な取組などの活動を通じて漁業の再生を図りつつ、水産業が発揮する多面的機能の維持・増進に向け、佐良浜集落において集落協定を締結し、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

漁獲物を船揚げする前にサメによる食害等の漁業被害があるため、漁場の管理・改善によりサメ駆除を実施し漁業被害の軽減及び安全操業を図ることとした。

・漁場の管理・改善(サメ駆除)



延縄回収



駆除したサメ

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

地域の基幹産業であるカツオ一本釣漁業に使用する活餌について、餌獲りを行っている追込網漁業経営者や従事者の高齢化等により、活餌の漁獲が安定せず、餌となる活魚の確保が重要な課題であることから、新たな漁具・漁法の導入によりカツオ漁の餌自動捕獲装置である「魚類捕獲装置」にて試験操業を行い活餌の確保を図ることとした。また、新型コロナウイルスの影響により、地域の水産物の需要の低下が著しく、例年実施していたイベントも開催中止を余儀なくされ、従来の方では魚食普及活動に大きな支障が出ているため、魚食普及により新型コロナウイルスの影響によって修学旅行が中止になった学生などをターゲットにして、魚のさばき体験を実施し、修学旅行の代替体験として島内にPRするとともに宮古島市産水産物の普及・消費拡大及び漁業への関心の増加を図ることとした。

- ・新たな漁具・漁法の導入（ミジュンほいほい導入）



全体図



設置状況

- ・魚食普及（魚さばき体験）



体験の様子



体験の様子

4. 取組の成果

交付金交付対象漁業者所得平均 1,596 千円

漁業集落漁業就業者数 115 名

漁場の管理・改善の取組でサメ駆除を実施することにより 38 匹のサメを駆除することができ、漁獲物の漁業被害の軽減及び安全操業を図ることができた。

新たな漁具・漁法の導入により自動餌捕獲器の製作、設置までは達成したが、漁港・水面の許可手続きなどに時間がかかってしまい、漁期を逃してしまったことや荒天が続いたため、運用については 2 か所しか検証ができず、十分な成果とはならなかったことや LED に使用するバッテリー交換のタイミング等まだまだ見直すべき点があるため、今後も継続して実施し活餌の確保を図っていく。また、魚食普及により魚さばき体験を実施し島内の小中学校のほとんどを受け入れ宮古島市産水産物の普及・消費拡大及び漁業への関心の増加を図った。今後は民泊事業との連携も検討しつつ、修学旅行の代替案、イベントの代替案としてではなく、地域の学校教育の一環として根付かせること目標にして、体制の改善なども図り、取組を続けていく。